

書 評

『基礎からわかる 損害保険の理論と実務』

諏澤 吉彦 著

保険の理論は存在するが、保険ビジネスを理解するには、理論だけでなく保険実務を知る必要がある。とりわけ消費者にとっては、保険は複雑怪奇な「商品」に見えるかも、丁寧に読み進めば、

「基礎からわかる」ような配慮がされているが、保険実務家を目指すような方に対しても、読み応えのある教科書となっている。

保険の利用者に対する記述が充実した教科書



【評者】
米山 高生 (一橋大学名誉教授)

本書は大きく三つの部分に分かれている。第1章から第3章までは、「保険の利用者(需要者)」、第4章と第5章

が行われている。なお、④の内容は損害保険制度のみならず、保険制度を支える原則と法則が解説されているが、第2章が「損害保険を支える仕組み」となっていることに呼応するものであろう。第3章では、実際にど

第4章以降の各章も充実した記述であり、また、従来のテキストとも整合的なものであり、保険実務を学ぶ者にとって極めて有益である。

保険証券は有価証券であるという記述がある(4頁)。確かに、貨物海上保険証券について、その有価証券性を主張する説もある。しかし、保

もちろん、これらのことは、本書の素晴らしい出来栄を損ねるものではない。最後に、損害保険を初めて学ぶ人から実務家まで、幅広く読んでいただきたい好著であることをあらためて強調し書評の結びとしたい。

(A5判)316頁、
保険毎日新聞社刊、23年10月29日発行、税込3520円

科書であることは間違いない。その点を強調した上で、若干気が付いた点を述べて書評を結ぶことにしたい。

理解が深まるのではないかと。言い換えれば、パーソナル・リスクマネジメントとコーポレート・リスクマネジメントの下敷きにして、それがいかんにして企業価値を高めるのかという点を説明しておくこと